

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700998		
法人名	有限会社ダイワサービス		
事業所名	グループホーム銀杏苑		
所在地	青森県三戸郡五戸町銀杏木1番地45		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・自然に恵まれている環境を生かし、菜園を造ったり、草取り、季節の山菜を取ったり、栗拾い等、希望者には自由に行えるように支援している。又、施設内だけで過ごさぬよう行事等に外出する機会を取り入れ外との関わりを多くするよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は季節の移り変わりを楽しめる環境にあり、事業所内には中程度と重度の2ユニットあるが、ケア会議の中で意見交換を行い職員は双方の利用者の状況を把握している。合同会議には代表者も参加され、業務改善や安全確保の為の取り組みについて話し合っている。地域住民とは散歩時の声かけや事業所の夏祭りなど行事への招待、地域の行事への参加などで交流が図られている。また、防災訓練への参加もあり、協力体制が築かれている。自治体主催の「地域包括ケア会議」に出席し、医師・看護師・他施設の専門職の方からの助言をいただいたり、認知症ケアについて理解を求めるとし、協力体制が構築されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所独自の理念を掲げ、日々目に触れる場所に掲示し誰にでも分るようにしている。	事業所独自の理念を作り掲示している。状況に応じたものとなるよう話し合い、毎年見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会には入会していないが、祭り等のイベントには、寄付を行ったり見学に行っている。苑の祭り等には地域の方々も招待し理解を深めている。	近隣の民家の庭を見学に行ったり、地域の夏祭りや公民館・他施設のイベントに参加するなど、地域との交流が図られている。事業所の祭りへは地域の方を招待している。また、保育園の行事見学、中学校の体験学習の受け入れや高校生ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議に、自治会、家族の会にも参加していただき、話し合いの場を設けたり苑のイベントに招待し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・議題を設けて報告や話し合いを行っているが、一方的な報告や話にならないよう、率直な意見を引き出せるように取り組んでいる。	行事予定や利用者の状況、感染症や事故に関する情報、防災訓練などを議題としている。家族会からの要望で外出の機会を増やすなど、出された意見等はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議には、役場担当者に毎回参加して頂き、話し合いの場をもっている。	月1回の自治体主催の「地域包括ケア会議」に参加し、事例検討を通じて専門職から助言をいただいている。自治体職員とも意見や情報の交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員会議などで、議題にあげ勉強会を開くと共に職員間でも話題に出し話し合う機会がある。施錠なども理由のない限り行わないようにしている。	年1回資料等を活用しながら勉強会を開催している。職員会議でも議題に上げ、話し合う機会を設けている。新入職員には新人教育に取り入れて正しく理解できるよう指導している。やむを得ない場合には、家族より同意書をいただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議において時々取り上げ勉強会を開いている。又、職員間においてもお互いに注意したり話し合いがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・会議等で勉強会を開いたり研修に参加している。又、利用している利用者もあり話題にしている。利用した方がよいと思われる家族等にも説明することがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には重要事項説明書等を用いながら家族等に納得できる説明を心がけるとともに施設内に掲示し目につくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情受付窓口、外部窓口は契約書に明記しいつでも表せる様にしている。ご意見箱も設置している。	意見箱を玄関に設置しているが利用される方はいない。面会時や状況報告時、計画書確認時に要望を聞くようにしている。いただいた要望は職員間で申し送り、担当者が改善に向けて取り組んでいる。	意見を出しやすいよう意向調査等の実施を検討し、サービスの質の確保・向上につなげる事に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月職員会議、サービス会議を開き意見、提案を話せる機会を設けている。	棟毎のケア会議や合同会議で意見や提案を聞く機会を設けている。合同会議には代表者も参加され、改善に向け検討されている。過去に勤務体制や手すり取り付け、避難通路の整備などが実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得の実績や個々の勤務状況、努力に対する評価体制は感じられない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部への研修は出来る限り参加させるよう配慮すると共に研修の知らせを回覧し希望者は参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・五戸町地域ケア会議に出席し、地域の福祉施設と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所するには事前に本人と面談し情報収集すると共に施設見学や体験できる機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所するには事前に家族と面談し不安・要望等を伺い情報収集を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面接、情報収集をし入所判定会議を開き入所の可、否を判断している。否となった場合は他施設等の相談にも応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者自ら掃除、台所の手伝い等申し出て来たりし一緒に行っている。又、出来ると思われる軽作業等依頼し一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族との連絡を密にし相談しながら行っている。又、苑内行事への参加を呼びかけ一緒に時間を過ごせるように努めている。病院への受診も出来るだけ家族に依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人との面会は自由に行うことが出来るようにしている。又、行きつけの美容院等希望する場合は支援している。	受診の際に知人に会ったり、事業所に友人が面会に来る事もある。また、行きつけの美容院に出かけたり、畑に花を摘みに行くなど馴染みの場所への外出支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う物同志を隣席にするなど食事の席は決めてあるが他は自由であり交流を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後の関係は保たれていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケア会議等で本人の思い希望等について話あったり、家族からの聞き取り等で把握に努めている。	会話の中から意向を確認したり、家族からの聞き取りで、思いの把握に努めている。日常以外でも正月には今年の目標、七夕には願いを聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時に、本人、家族と面談し情報収集すると共に、他のサービスを利用していた場合は情報提供を頂きこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・食事の時間等決めてはあるもののその時々体調に合わせた過ごし方が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当職員が日々の生活の中から介護計画を作成し毎月のケア会議において全職員と話合っている。又、家族にもケアプランを見て頂き意見、要望を聞いている。	担当者と職員がケア会議で話し合い介護計画を作成し、家族から意見を聞いている。経過記録は、目標・サービス内容をわかりやすく記入できる様式を使い、全職員が目標を意識した記録ができている。それによって毎月の評価がしやすいよう工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者ごとにファイル(ケース記録)を作成し日々の生活、介護計画の実施状況を記録し、月末には評価、見直しを行いケア会議において話しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人や家族の要望に答え、急な外出、受診、送迎等に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・夏祭りには、地域の専門学校生、高校生にボランティアを依頼し、又、保育園の慰問を受けている。又、避難訓練には消防署の参加のもと実施し安全に暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前からのかかりつけ医がある場合は、継続できるようにし家族対応受診の場合は様子を紙面に書き渡している。又、希望する病院がある場合は希望に沿うようにしている。	継続してかかりつけ医の診察が受けられるよう支援している。家族が対応困難な時は職員が同行し、状況を伝えたり、指導をいただいている。専門医の受診が必要な場合は、連携をとりながら支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・現在看護職員は勤務しておらず、訪問看護の契約もされていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時にはお互い情報提供を交換している。入院時は面会を行い看護師より状態を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期に向けたケアには対応できていない。重度化した場合は家族や、病院との連絡を密にしている。	家族から看取り介護の希望はあるが、現在は看護師の配置がなく行っていない。今後の為に、終末期ケアの研修を2名の職員が受講中である。重度化や急変時の対応は、医療や家族と連携を図るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故発生時の初期対応マニュアルを作成し誰でも閲覧できるようにしてある。AEDを常備しており消防署の参加のもと、又、独自の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署参加のもと昼、夜を想定し近所の方にも参加して頂き防災訓練を行っている。緊急連絡網を作成し全職員が所有している。	消防署と近隣住民の協力を得て年2回防災訓練を実施している。他に年2回の訓練を実施し、通報装置は最新式の物に変え、迅速に避難誘導できるように取り組んでいる。また、缶詰や麺類などの非常食を用意して災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・「尊重」を忘れず人格を損なわない様な言葉かけを心掛けている。又、言葉づかいについて会議等を通し注意話合っている。	利用者の人格を尊重して一人ひとりに合わせた言葉かけに努めている。職員間でも確認し合っている。排泄時も、プライバシーと安心感に配慮しながら介助するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の理解度により話し方を変えたり表情や仕草から意思をくみ取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・各個人の体調、状態に応じ離床等自由に過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・散髪は、訪問利用を行っているが、他理・美容室希望者は、希望に沿うよう支援している。洋服選びも本人と一緒に رفتり個人の自由に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・能力に応じ食事の準備、片付け等一緒に行っている。食事もキザミ・トロミ・おかゆ等各自の能力、希望に合わせて対応している。	利用者の希望を聞いて献立をたて、旬の食材を使うなどして食が進むようにしている。食事の準備や片付けを一緒に行いながら、好みを確認したり役割を持ってもらうようにしている。また、たまに外食をして食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取チェック表を利用し食事量を把握するようにしている。又、状態に応じ水分チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後各個人の状態に合わせ歯磨き、うがいの実施を支援している。又、就寝時には入れ歯洗浄剤を使用し消毒に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表を利用し時間をみての声かけ、又、状態、仕草を見ての誘導を行っている。	排泄間隔を把握して時間でトイレ誘導したり、仕草を観察して誘導している。ズボンの上げ下げや清拭など自力でできることを行ってもらい、自立に向け取り組んでいる。おむつ外しができた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎朝、起床後牛乳等水分を取ってもらったり、音楽を利用し毎日体操を行っている。又、状態に応じ医師と相談し薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	・曜日を定め本日の入浴者が分るように掲示しているが、本人の都合や希望に合わせてるようにしている。	予め本日の入浴者を決めて掲示することで、入浴意欲をもたせるようにしている。入浴時間は一人ひとりに合わせており、拒否があった場合は、他の方と交替するようにしている。数種類の入浴剤から選べるようにして入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ベット上で1日を過ごしてしまいそうな利用者には離床を促しているが休息は自由に行っている。眠れない利用者には処方された薬を調整しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに処方箋を閉じ薬について情報を共有している。服用し変化が見られた時は医師と相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・掃除、台所手伝い家庭菜園、草取り等個人の希望に沿って行っている。嗜好品等は家族が持ってきて下さったり、希望者には買い物に出かけ購入出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・可能な限り希望に沿って外出、散歩の機会を作ったり家族に連絡し出かけるようにしている。又、行事に個人の希望を取り入れた外出を組み入れている。	近所の散歩や買い物、ドライブなど希望に応じた外出支援をしている。希望のない方には、昔行ったと思われる場所を選んで、ドライブに出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理は、職員が行っており行事、外出時や買い物等は支援のもと行っている。が、お金を常に所持している利用者もある為、金額を把握し使い方は本人の自由に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話、手紙のやりとりは自由に行っている。手紙が来た時には本人に渡しているがこちらから書く行為は見られていない。電話は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・廊下には行事や、日々の暮らしの写真を貼ったり、季節に合った壁画をつくり貼っている。冬には、こたつをだし自由に利用出来るようにしている。	外のベンチで日光浴をしたり、景色を楽しみ四季を感じる事ができる。ホールの小上がりでは横になったり、冬はこたつで過ごすことができる。花を飾ったり、装飾品を毎月変えて行事や季節を実感できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにはテーブルの他に畳の場所もあり自由に横になったり話しをしている。テーブルも食事の席は決まっているものの自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時には出来る限り本人が今まで使用していたものを持ってきていただく様にお願いし、配置も自由に行っている。本人の写真、自身で作った作品を貼っている。	できる限り今まで使用していた物を持ちこんでいただき、暮らしやすいように家具を配置している。花や作品、家族写真等を飾り、自分らしい居心地が良い部屋となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・混乱しそうな利用者には居室に大きく名前を貼り確認しやすいようにしている。建物内は手すりを付けつつあまりながら移動出来るようにしている。		